「論文」

# 明示的遂行文の遂行動詞への進行形の進出に関する予備的考察*

山﨑　　聡

## Abstract

In principle, the simple present tense is used for performative verbs in explicit performative sentences such as *I ask you*, *I warn you*, and *I dedicate*; however, some scholars have pointed out that the progressive form may be used instead of the simple present tense. This paper aims to provide a both diachronic and synchronic overview of the use of the progressive form in performative verbs, mainly focusing on the extent of the inroad of the progressive into different types of performative verbs, primarily based on the Corpus of Historical American English. This study found that the use of the progressive with performative verbs is a 20th-century phenomenon; while a limited number of performative verbs have been employed in the progressive form with a moderate frequency relative to the corresponding simple present, recent decades have witnessed increased relative frequencies in more frequent performative verbs and some extension to new verbs.

The findings of this study largely align with those of De Wit et al. (2018; 2020) concerning the types of performative verbs commonly associated with the progressive form. However, it also identified several contradictory facts and extensions their studies overlooked. This paper argues that while the "extravagance" associated with the progressive form tends to be exploited with informal and colloquial performative verbs, other factors, including individual verb characteristics and additional features of the progressive form, contribute to the usage of progressive performative verbs.

## 1．はじめに

I beg you，I warn you，I deny，I dedicate のような英語の明示的遂行文は，そ

の主語に一人称のI，その遂行動詞には単純現在形を用いるのが典型とされる（Searle, 1989: 537; Huang, 2014[2]: 122 など）。しかし，遂行動詞に単純現在形の代わりに現在進行形が用いられることが一部に指摘されてきた（以下，用例中の太字は筆者による）。

（1）a. I **am asking** you to do this for me, Henry, I **am asking** you to do it for me and Cynthia and the children. （Searle, 1989: 537）

b. Don't come too close. I warn you/**I'm warning** you.

c. We propose/We **are proposing** a compromise.

（(b), (c)–Eastwood, 1994: 16）

d. You **are being discharged** on the grounds of severe temperamental unsuitability for service in the Royal Navy. （Thomas, 1995: 45）

用例（1c）と（1d）では，主語もI以外が用いられているが，ここでのポイントは，（1）のいずれにおいても遂行動詞に単純現在形の代わりに進行形が用いられている点である。Searle（1989）は遂行文の動詞に単純現在形が適している理由に触れてはいるが，進行形が用いられることに関する分析は行っていない。また，Eastwood（1994）と Thomas（1995）も遂行動詞に進行形が用いられることがあるという指摘に留まっている（Fraser, 1996: 173 も参照）。

その中で，近年 De Wit et al.（2018）は，英語の明示的遂行文に周辺的に用いられる進行形の使用について考察を行っている。彼らの調査によると，大多数の遂行動詞には単純現在形が用いられるものの，進行形は指示型（directive）を中心とした一部の遂行動詞に特によくみられ（particularly common）（p. 257），単純現在形に比べて，話し手の強調・いらだち・緩和等の通常とは異なる extravagance（以下「桁外れ感」）を伝えるとしている。そして，彼らは，指示型の遂行動詞に進行形が用いられやすく，promise などの行為拘束型（commissive）や apologize などの表現型（expressive）では進行形は皆無であると指摘している。

こうして，De Wit らにより，進行形の遂行動詞への進出がおそらくはじめて具体的に分析されたが，まだ不十分と感じられる部分も存在する。中でも，彼らの考察は現代英語についての共時的分析で，遂行動詞への進行形の進出がいつ頃からみられる現象であるのかについては不明である。また，研究で述べられているのは，進行形の遂行動詞のことのみで，対応する単純現在形との競

合をはじめ，それとの関係については触れられていない。そこで，本稿は De Wit らとは異なる関心と視点から，主に Corpus of Historical American English（COHA）を用いて，進行形はいつ頃からどのような遂行動詞にどれだけ進出しているのかを中心に，進行形の遂行動詞の使用実態について主に記述的な予備的考察を行うことを目的とする。

本稿の構成は以下の通りである。2 節では先行研究として De Wit et al.（2018; 2020）の見解を概観する。3 節では調査方法を述べる。COHA を用いてのデータ収集の手順を説明し，除外例と採用例を挙げながら本稿での用例採取の方針を示す。4 節では調査結果を提示し，De Wit et at.（2018）の知見を参照つつ，進行形の遂行動詞への通時・共時的な進出状況を観察し，またその考察を試みる。5 節で本稿で得られた知見を簡潔に振り返り，今後の諸課題を述べる。

## 2. De Wit et al.（2018; 2020）の遂行動詞と進行形に関する考察

1 節で触れたように，遂行動詞における進行形の使用とその進出を詳しく扱った研究は，筆者の知るところでは，De Wit et al.（2018; 2020）のみと考えられる。本節では，遂行動詞に原則単純現在形が用いられることと進行形の基本的な意味についての彼らの考え方と，遂行動詞における進行形使用に関するその観察と知見を概観する。

まず，遂行文に用いられる相（aspect）について，De Wit et al.（2018）は，一般に，発話の時点で「完全かつ瞬時同定可能な」（fully and instantly identifiable）状況を表す（相の）形式が用いられることを 16 の言語で論証している。「完全かつ瞬時同定可能な」とは，当該の文によって表される事態がどのようなものか，その全体像が発話の時点で認識できる状態を指し（pp. 239–243），英語ではそれを表す形式に原則単純現在形が充てられるという。遂行動詞は，その定義上，発話と瞬時同時的にその文が表す行為を遂行することから（吉良，2018: 40），話し手は遂行文が表す事態をその発話時点で認識・把握していることになる。そのため，英語の遂行動詞には単純現在形が原則用いられる。De Wit et al.（2018）は完全かつ瞬時同定可能な状況をほかにも挙げていている。例えば，状態（state），習慣的行為，スポーツの実況中継，料理の実演，歴史的現在，確定的な（公の）予定などがそれである。[1] これらの状況はいずれも単純現在形で表される。

次に，彼ら（De Wit et al., 2009; De Wit et al., 2020）の進行形の捉え方を簡潔にみておく。彼らによれば, 進行形は（通言語的に）「認識的偶発性」（epistemic contingency）というスキマティックな意味をもつ。認識的偶発性とは，当該の事態が生起する必然性がない（not necessary）ことを表す。進行形で表される事態，例えば He is talking on the phone at the moment. は，実際に生起していることではあるが，それは予期されたことではなく，必然性のない出来事という。この点，単純現在形で表される，I walk in the park on Sunday mornings. のような習慣的行為は非有界・均質的で，その事態は瞬時同定可能であることから，その意味で予期され，必然性がある。De Wit らは，進行形にまつわる，話し手の事態に対する驚き，いらだちといった主観的な意味（桁外れ感）も，発話時における予測不可能，必然性のなさという進行形の認識的偶発性に起因すると主張する。

この進行形の認識的偶発性にまつわる桁外れ感は，進行形がいまだ文法化していなかった古英語から近代初期英語にかけて，進行形の目立った用法としてしばしば指摘されてきたし,[2] De Wit et al.（2020）も近代初期英語の進行形は，単純現在形に比べて桁外れ感を伴った用例が多いことを論証している。しかし，De Wit et al.（2020）は，この桁外れ感は，進行形の文法化が進んだ現代英語にも存在するとし，単純現在形の使用が典型的な，状態動詞，遂行動詞や習慣的な行為を表す文脈等において，桁外れ感を狙って，単純現在形の代わりに進行形が用いられている事例を挙げている。[3]

本稿のテーマである遂行動詞における進行形の使用については，De Wit et al.（2018）でより詳しい調査報告とその考察がなされている。それによれば，The Corpus of Contemporary American English（COCA）による調査によると，大多数（large majority）の遂行動詞では専ら単純現在形が用いられていたが，特定の種類の遂行動詞に進行形の使用が観察されたという。つまり，遂行動詞の進行形は warn，order，request のような指示型の遂行動詞に目立つが，thank，apologize のような表現型と promise のような行為拘束型では皆無であったという。彼らは，進行相が指示型の遂行動詞に目立つのは，指示型の動詞の中には，切羽詰まった意味をもつもの（warn，order，request など）もあり，それが進行形の桁外れ感と馴染むためと論じている。

## 3. 調査方法と用例収集

### 3.1 調査方法

2 節で，一部の遂行動詞に用いられる進行形は，進行形に内在する桁外れ感が現代英語にも残存している現われという De Wit et al.（2018; 2020）の見解を紹介したが，本稿では，進行形がいつ頃から遂行動詞に進出しているかについての関心から，アメリカ英語の通時的な変化を追える Corpus of Historical American English（COHA）を主に用いて調査を行った。Wierzbicka（1987）などを参考に，異なるクラスの遂行動詞の中で比較的頻度が高いと目される 49 の遂行動詞を選定して，まずは 1900 年代，1940 年代，1980 年代，2010 年代における進行形の遂行動詞と, 主に進行形の遂行動詞がみられるものについて，対応する単純現在形の遂行動詞の出現頻度を調べた。これにより，それぞれの遂行動詞の単純現在形に対する進行形の進出の度合いを，いわば定点観測的につかめる。ただし，40 年ごとのデータ取りであるので，その間のこと，あるいは 1900 年以前のことは，不明である。そこで，第 2 段階で定点を加えた全期間を対象に検索を行い，異なるクラスの遂行動詞への進行形の進出の全体像が把握できるようにした（図 1 参照）。

### 3. 2 用例収集

進行形の遂行文をコーパスで収集するに当たっては，慎重に該当例を拾い上げる必要がある。それが遂行文として用いられているのか，そうではなく，記述的な（descriptive）用法，現在進行中の動作を表す相的な（aspectual）用法，予め決められた予定や近接未来を表すのか，あるいはいわゆる行為解説（interpretative）用法であるのか（これらの諸例は考察の対象外）の区別が重要である。コーパスの拡張文脈の参照のみでは不十分な場合には，（利用可能であれば）小説からの用例は Google Books 等で，テレビドラマや映画からの用例はその作品にて，その文脈やシーンを吟味することで該当例を拾いあげた。以下，調査から除外したタイプの用例（3.2.1）と該当例（3.2.2）を挙げながら，本稿での用例採取の方針を示す。

#### 3.2.1 除外例

単純現在形・進行形の遂行動詞全般について次の 3 つのタイプの用例は除外した。つまり，（i）記述的な用法，（ii）相的な用法，（iii）行為解説用法の用

例である。また，(i)～(iii) のいずれかの用法と遂行動詞とであいまいと考えられるもの (iv) も除外した。順にみてゆく。

(i) 記述的な用法

用例 (2) は，「いつ Mikal に会えるのか」と尋ねたのに対して，相手は高圧的な回答を与えている場面である。ここでは，Mikal に会うことを決めるのは自分次第と述べているのであり，動詞 deny によって Mikal に会うことを禁じる発話行為をこの場で行っているわけではなく，(2) は遂行文の用例ではない。

(2) "And when will that be?" "When I say so. I make the schedule. I give access to Mikal or **I deny** access to Mikal!" (1980, FIC, O. S. Card, *Songmaster*)

(ii) 相的な用法

用例 (3a) では，先だって「君にしてあげられることを言おう」(下線部分) とあるので，この進行形は意思未来用法であろう。(3b) も，文頭の At our next meeting があることから，発話の時点では提案はしておらず，確定的な未来用法である。

(3) a. I'll tell you what I am willing to do, though. I think the Agency has grossly underestimated you, and **I'm recommending** you for a senior case officer position. Provided you still want it. (2012, MOV, *Safe House*)

b. At our next meeting, **I suggest** a considerable increase in the funds for the Committee. (1944, FIC, T. Caldwell, *Final Hour*)

(iii) 行為解説用法

本稿では，Ljung (1980: 69–80) や毛利 (1980: 115–131) 等に従い，進行形の行為解説用法を，当該の文に先立つある発言 (単純形で表される) の意図または行為の意味することろを，メタ言語的に (進行形で) 解説する用法と捉える。König (1980) は，行為解説用法が典型的に現れる統語環境を指摘しているが，並列構造 (parataxis) に出現する場合は，形式的な手掛かりはないので，結局文脈を読み込んで判断することになる (Smitterberg, 2005: 234f.)。Smitterberg (2005: 236f.) による 19 世紀の英語の調査では，解説の対象が，König が指摘する明示的な統語環境で使用される事例は実際には少なく，該当例の 85% は (並列構造で) 文脈から判断されたという。実際，下記の (4) もそのよう

な用例かと思われる。また，米倉（2023）は，近代英語期の進行形の行為解説用法を観察して，それは先行の言動を対比的に再解釈する文脈で用いられやすいことを指摘している。用例（4a）は対比的な文脈で用いられていると考えれるが，（4b）は特に対比的とは思われない。さらに，解説の対象は言語化されないこともある（Ljung, 1980: 73; Leech, et al., 2009: 134）（（6）はその例かもしれない）。そこで，本稿では，先行研究で指摘されている生起環境に関わる知見を手掛かりにしつつも，Smitterberg らと同様に，文脈を吟味することで行為解説用法か否かを判断した。行為解説用法と判断したものを 2 例のみみる。

（4）a. “I have my plans, too,” she said. “You can forget yours. I’m not going to ask you to do any of these things. **I’m ordering** you to do them. You have no choice. . . Naturally, first, you’re never to see her again.

（1949, FIC, J. O’Hara, *Rage to Live*）

b. “Hypertension is nothing to mess with, Abigail. You’re so . . . restless. You need a break—a chance to find some peace in your life.” She cleared her throat, then her face took on that I’ve-made-up-my-mind look. “Whether you go to your aunt’s or not, **I’m insisting** you take a leave of absence.”

（2011, FIC, H. Denise, *A Cowboy’s Touch*）

まず，（4a）では，これからは言うことは依頼ではなく（下線部分），命令なのだと自らの発話の意図を解説している。（4b）も話し手自身の直前の発言（下線部分）の意図を解説していると考えられる。[4)]

さらに調査では，上記の（i）～（iii）のいずれの用法であるのか判断が難しい事例もみられたが，これらはいずれにしても遂行動詞の用例ではないので，除外した。1 例だけ例示する。（5）では, I’m asking you to . . . は「帰りたいので，ディナーのことは忘れてとお願いしているのです」と，forget it の発言の意図を相手に確認させる行為解説用法と考えられる。しかし，当該の発言に先立ち forget it と数度にわたり頼んでいるので，相的用法でもあるかもしれない。

（5）Well, listen, I really appreciate the gesture but I want to go home. Why not dinner? Just forget it. The pasta will be al dente in two minutes 17 seconds. Forget it, Lois. Where’s your dinner guest? Forget it. She forget it? She didn’t forget it. **I’m asking you to** forget it. Very well, I will erase it from memory. You do that.

（1984, MOV, *Runaway*）

（iv）遂行動詞とそのほかの用法とであいまいなもの

（i）～（iii）のいずれかの用法と遂行動詞とであいまいと考えられる用例もみられた。このタイプの用例も除外したが, 1 例だけみておく。Smitterberg（2005: 234）は，書簡中の I am writing . . . について，解釈の対象が明示的に述べられていない場合でも when I produce this letter のような節を補うこともでき，行為解説用法とれるかもしれないという。しかし，その時点で手紙を書いていることから単に相的な意味にもとれ，I am writing. . . はあいまいであろうと述べている。用例（6）の asking はその時点で瞬時同時的に依頼をするので，writing とは異なり，吉良（2018）の言う進行形の「前段階」が asking には存在しないことから相的な読みはなく,[5] 遂行動詞の進行形と考えられる。しかし，当該の文も投稿者の執筆意図を伝える（when I produce this letter, I am asking . . .）行為解説用法と取れなくもないだろう。 調査では，（6）のように，遂行動詞以外の解釈も可能で，いずれともとれる用例は除外した。

（6）I read the letters in the Post and think they bring certain problems before the public, so **I'm asking you to** print mine as soon as possible and bring the subject of tinnitus into the public awareness.

（1986, MAG, *Saturday Evening Post*, MEDICAL MAILBOX）

### 3.2.2 該当例

これまで調査対象から除外したタイプについて述べてきた。以下では該当例を示す。用例は Searle（1975）による遂行動詞のタイプ別に，紙幅の関係でより頻度の高い進行形の用例を中心に提示する。まず，断言型の用例（7）をみてみよう。（7a）の I'm telling you は字義通りの意味が希薄化して，ホスト文の命題内容を強調する定型句と考えてよいだろう。[6]（7b）は，ゴルフに必要なのは練習量で，ゴルフには生まれながらの才能というものは存在しないという主張を展開する文章からである。この I'm saying は，I'm telling you と同様に，ホスト文の命題内容を強調しているであろう。（7c）は，うちの芝生の庭にヒアリを蒔いたのはあなたね，とその証拠を見つけた Peggy が隣家の Dale に問い詰めると，彼はそれを否定する場面である。その場で瞬時同時的にその訴えを否定しているので，遂行文である。また，命題の真偽に関する言明であるので，

断言型と判断される。

（7）a. This is total authenticity. **I'm telling you**, Ellie, not one single thing is missing.
（2015, FIC, R. R. Cooper, *Tunneling*）

b. If you think I'm crazy, you're going to think I'm crazier. **I'm saying** that you have as much innate golf talent as Tiger Woods. That is, you came into this world with the same inborn ability to play golf that he did.
（2013, MAG, *Golf Magazine*）

c. Peggy: How could you do it? How could you plant fire ants on our lawn?
Dale: **I'm denying** that. That's my position.
（1997, TV, *King of the Hill*, Season (S) 1）

次に，指示型の遂行動詞の用例を提示する。まず，比較的用例数が多かった動詞の用例を（8）にみる。（8a）では重症の PTSD を病む Luke が，両親も認識できなくなり，二人をクロゼットに閉じ込め銃口を向けている。父親が「頼むから，こんなことは止めてくれ」と懇願している場面である。（Jenna は Luke の妻）その場で瞬時同時的に懇願していて，「前段階」は存在せず，遂行動詞のはずである。また，懇願しているのは自明で，その意図を自分で解説する必要はなく，行為解説用法とは考えにくい。（8b）は，容疑者の少年たちを擁護する神父が，「彼らを警察署から釈放しないとマスコミを呼ぶぞ」とやって来たのに対して，警官が「手掛かりが見つかったので，もう少し時間をくれないか」と神父に頼んでいる場面である。この発言はその場でなされた瞬時同時的依頼の発話行為ととるのが妥当だろう。（8c）は，法廷での弁護士と裁判官とのやり取りで，ここで弁護士は裁判官に対して，「依頼人の自己誓約による釈放を要求します」とこの場で瞬時同時的に要請している。（8d）もこの場で緊急避難を命じている場面で，遂行動詞にちがいない。（8e）は，自分の娘 Caroline がバンパイアであることに気づいた刑事でもある母親が，Caroline を連行する。そこに Caroline の友人の Bonnie が現れ，彼女に対して Caroline の母親が「この件に関わらないように」と警告している場面である。Bonnie を見かけたその場でそう警告しているので遂行文である。

（8）a. Luke: What did you do to Jenna?
Luke の 父 親：Luke, please, stop this, **I'm begging you**, your mother, her

heart is weak. （2011, TV, *Criminal Minds*, S7）

b. 神父：Sergeant Voight, you've had the [suspected] boys for 24 hours. If you don't release them, I'm gonna bring the press up here. 警官：Father, we're on to something. **I'm asking you** to give us a little more time. Please.
（2017, TV, *Chicago P.D.*, S4）

c. 裁判官：To the charges of aggravated mayhem, kidnapping, and false imprisonment, how do you plead?
弁護士：Not guilty. And **I'm requesting** that my clients be released on their own recognizance. （2011, TV, *Drop Dead Diva*, S3）

d. ". . . And we all agree the gravity shifts are beyond anything the safety systems were designed for. With regret **I am ordering** an immediate evacuation."
（2009, FIC, P. F. Hamilton, *The Temporal Void*）

e. Caroline の母親：I'd say the vampire I've been looking for is my own daughter. Bonnie:［Caroline が連行されるのに気付いて］Caroline? Caroline: Bonnie, find Damon. Caroline の母親：**I'm warning you**, Bonnie. Stay out of this. （2017, TV, *The Vampire Diaries*, S8）

次に，そのほかの指示型の用例（9）を検討しよう。(9a）は，（元）町長は人間ではなく悪魔あると住民は分かったので，新しく町長に選ばれたという男（Gibson）が，彼に「家に帰れ，できればここから出て行ってくれ」と述べる場面である。その場でそう忠告しているのであるから，遂行動詞ととるのが最も自然である。(9b)では, 開店準備中のレストランに投資を考えている男性が, レストランの中身について話し合う会合にて提案を行っている。(9c）は Evans 少年にとって最適な受け入れ先をこの場で推奨している場面であるので，この recommending は遂行動詞の用法と判断される。(9d）は，集会の冒頭で，Cinch が Thank you for coming here. と述べた後に「手短に言うと，自然保護区の維持管理をわれわれの組織に移管することを提案します」と述べている部分からである。冒頭での発言であるので，ある発言の意図を解説しているというよりも，発話と瞬時同時的に提案の発話行為を行っているととるのが妥当であろう。最後に（9e）は，極めて難しい手術に立ち会い，何時間も処置できずにいる Shepherd 医師に上司の医師が手術中断を求めている場面である。当該の箇所は So, I am demanding . . . と So のつなぎ語があるので，その場の状況を受けて要請の発話行為を行っていると考えるのが自然であろう。

（9）a. Gibson: . . . You tricked the fine men and women of Bon Temps into thinking they were voting for a human being when the truth is they were voting for the Devil. ある住民：You tell him, Mayor Gibson. Gibson: The people have spoken. I'm the mayor now. And as mayor, **I'm advising** you to go on home, or better yet, leave Bon Temps for good.　（2014, TV, *True Blood*, S4）

b. How about this idea? I feel that you can never get a waiter's attention. So, **I'm suggesting** that every table should have a bell on it.
（2002, TV, *Curb Your Enthusiasm*, S3）

c. Evans is a war of the state, and it is this court's responsibility to decide where he would be best placed. As a representative of Bridgepoint Social Services, **I am recommending** that the Border home is the best environment for Evans to grow up in.　（2011, MOV, *Beyond Acceptance*）

d. "Thank you for coming here," Cinch started saying, first making sure that everyone had a seat and a cold soft drink in front of them. Having heard about the government's emphasis on its need for transparency, he said, "To be quick, **I'm proposing** that you transfer the maintenance of this natural preserve to our organization."　（2004, FIC, A. Kuo, *Free Kick*）

e. Dr. Shepherd. The rate of infection for this patient is increasing every second you keep him open. Not to mention the thousands of dollars you are wasting standing here doing nothing. So **I am demanding** that you close this man up. Close him up and relinquish the OR.　（2009, TV, *Grey's Anatomy*, S6）

調査では，表現型と行為拘束型の用例は皆無であったため，最後に宣言型の諸例をみておく。まず，（10a）は小説の献辞からであるが，まさに献辞あることから I'm dedicating は遂行動詞にちがいない。（10b）は危険人物が脱走したので，要員に武器を与え，厳戒態勢を取れと述べている場面である。その場でそう述べて緊急事態を宣言する遂行動詞といえる。（10c）では，大統領がこの辞任宣言に続く手短な挨拶の後に実際に退任している。（10d）では，当該の場面の直前に殺人現場に手を付けるな，と少佐が述べている。この少佐の発言を聞いて，大佐が彼に「お前をスコットの弁護人に任命する」と述べている。少し後で I've appointed you counsel.（下線部分）と完了形で述べていることは，当該の文が遂行文であることの証左であろう。最後に（10e）は，離れたところからおもちゃのカエルを器に投げ入れるゲームで，ウサギのぬいぐるみを獲

得した男子が，ゲームを主催している女子に名前を尋ね，「そうしたら，このウサギを Hannah と名付けるよ。」と言って名づけ，それを与えようとする場面である。I'm naming . . . という発言と同時に名付けているので，遂行動詞にほかならない。[7)]

（10）a. Author's Note: This story is for my Aunt Michelle, who recently passed due to aneurysm and stroke. **I'm dedicating** this short story to her.
（2019, FIC, *See You Again*）

b. "Mister Jeffers," he said abruptly, "break out the stun guns. Issue one to each officer and one to each chief non-com. Until we get this straightened out, **I'm declaring** a state of emergency."　（1962, FIC, G. Randall, *Unwise Child*）

c. Effective immediately, **I am resigning** the presidency of the United States.
（COCA, 2014, TV, *House of Cards*, S2）

d. 大佐：**I'm appointing** you counsel for Lieutenant Scott. 少佐：Sir, I'm not a lawyer. 大佐：You sounded like one a minute ago. 少佐：I could be a material witness. I mean, I heard the lieutenant going out. 大佐：The lieutenant needs our help. I've appointed you counsel. Understood? 少佐：Yes, sir.　（COCA, 2002, MOV, *Hart's War*）

e. 男子：I'd like the pink bunny, please. What's your name? 女子：Hannah. 男子：Well, **I'm naming** my bunny after you, Hannah.
（2006, TV, *Veronica Mars*, S2）

## 4. 調査結果と考察

### 4.1 調査結果

本節では，2 節と 3 節で述べた方針で収集した該当例の集計結果を提示し，De Wit et al.（2018）の知見に言及しながら，進行形の遂行動詞への進出状況を観察する。まず，（単純現在形に対して）進行形の遂行動詞が比較的多くみられたものと一部単純現在形の件数の多いものについて，1900 年代から 2000/2010 年代の間の 4 つの時期における単純現在形と進行形の出現頻度を示したものが表 1～表 3 である。[8)] 表では，動詞は Searle（1975）による遂行動詞のクラス別に提示してある。原則，概ね 40 年ごとのデータを採取したが，I tell you/I'm telling you は件数が多いことから, 3 つの時期からデータを採取した。

また, I'm saying では, I say の検索結果が多い（例えば 2010 年代だけで 2,837 件）ため，COHA 全体の件数は I'm saying だけの件数をまず示し，I say との比較は TV/MOV のサブコーパスにおける件数を右側に提示した。粗頻度の直後のカッコ内の数値は，それぞれ 100 万語当たりの調整頻度を表し，比較的高頻度のものには，その頻度に応じた濃淡の網掛けを施した。[9] なお，進行形の件数は I'm の縮約形と I am の用例を含むが，表では縮約形で代表させている。全期間を通して該当例が希少な宣言型の遂行動詞（表 3）については，COCA による調査結果（C. と表記）も併記した。

表 1. 単純現在形と進行形の遂行動詞の通時的出現件数〈断言型〉[10]

| | 1900s | 1960s | 2010s |
|---|---|---|---|
| I tell you | 430 [19.57] | 496 [17.03] | 75 [2.12] |
| I'm telling you | 5 [0.2] | **101 [3.47]** | **162 [4.57]** |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s |
|---|---|---|---|---|
| I'm saying | 0 | 3 [0.11] | 2 [0.07] | 5 [0.14] |

| [TV/MOV] | 1940s | 2010s |
|---|---|---|
| I say | 42 [14.54] | 15 [2.96] |
| I'm saying | 3 [1.04] | 2 [0.40] |

表 2. 単純現在形と進行形の遂行動詞の通時的出現件数〈指示型〉

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s | | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| I ask* | 50 [2.28] | 49 [1.79] | 46 [1.54] | 26 [0.73] | I beg ** | 188 [8.55] | 119 [4.34] | 108 [3.62] | 51 [1.44] |
| I'm asking | 0 | 7 [0.26] | 9 [0.30] | 13 [0.37] | I'm begging | 0 | 1 [0.04] | 12 [0.40] | 34 [0.96] |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2000s+10s | | 1900s | 1940s | 1980s | 2000s+10s |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| I request | 3 [0.14] | 13 [0.47] | 11 [0.37] | 17 [0.24] | I order | 2 [0.09] | 9 [0.33] | 15 [0.50] | 34 [0.48] |
| I'm requesting | 0 | 1 [0.04] | 1 [0.03] | 6 [0.09] | I'm ordering | 0 | 0 | 9 [0.30] | 17 [0.24] |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s | | 1900s | 1940s | 1980s | 2000s+10s |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| I warn | 57 [2.59] | 79 [2.88] | 45 [1.51] | 17 [0.48] | I advise | 36 [1.64] | 39 [1.42] | 29 [0.97] | 34 [0.48] |
| I'm warning | 0 | 27 [0.99] | 47 [1.54] | 23 [0.65] | I'm advising | 0 | 0 | 0 | 2 [0.03] |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s | | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| I suggest | 29 [1.32] | 176 [6.42] | 217 [7.27] | 176 [4.96] | I propose | 58 [2.64] | 39 [1.42] | 30 [1.00] | 30 [0.85] |
| I'm suggesting | 0 | 1 [0.04] | 0 | 2 [0.06] | I'm proposing | 0 | 0 | 1 [0.03] | 0 |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s | | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| I recommend | 18 [0.82] | 18 [0.66] | 43 [1.44] | 52 [1.47] | I insist | 36 [1.64] | 60 [2.19] | 66 [2.21] | 55 [1.55] |
| I'm recommending | 0 | 0 | 0 | 2 [0.08] | I'm insisting | 0 | 0 | 0 | 0 |

*I ask a favor (of you)は除外した

**I beg your pardon/forgiveness/leave、I beg to differ/disagree は除外した

表 3. 単純現在形と進行形の遂行動詞の通時的出現件数〈宣言型〉

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s | C. 2000s+10s |
|---|---|---|---|---|---|
| I dedicate | 4 [0.18] | 3 [0.11] | 3 [0.10] | 3 [0.08] | 39 |
| I'm dedicating | 0 | 0 | 0 | 1 [0.03] | 12 |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2000s+10s | C. 2015-19 |
|---|---|---|---|---|---|
| I declare | 3 [0.14] | 8 [0.29] | 7 [0.23] | 9 [0.13] | 18 |
| I'm declaring | 0 | 0 | 1 [0.03] | 2 [0.03] | 3 |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2000s+10s | C. 2010s |
|---|---|---|---|---|---|
| I resign | 2 [0.09] | 4 [0.15] | 2 [0.07] | 1 [0.01] | 9 |
| I'm resigning | 0 | 1 [0.04] | 1 [0.03] | 4 [0.06] | 5 |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s | C. 1990s-2010s |
|---|---|---|---|---|---|
| I appoint | 1 [0.05] | 4 [0.15] | 1 [0.03] | 0 | 7 |
| I'm appointing | 0 | 0 | 1 [0.03] | 1 [0.03] | 10 |

| | 1900s | 1940s | 1980s | 2010s | C. 2000s+10s |
|---|---|---|---|---|---|
| I name | 0 | 0 | 0 | 2 [0.07] | 9 |
| I'm naming | 0 | 0 | 0 | 2 [0.07] | 6 |

一般に，明示的遂行文は現代英語では形式ばった印象を与え，日常的にはあまり用いられないとされるが（Thomas, 1995: 47–49; Grundy, 2020[4]: 33f. など），その使用場面が限定的と考えられる宣言型の遂行動詞（表 3）を除けば，概ね通時的な減少傾向が表 1 と表 2 でも確認される。そのためここでは，遂行動詞への進行形の進出をそれぞれの単純現在形との相対的な比較で主にみてみよう。まず，表中で最も高頻度の進行形の遂行動詞は定型的な I'm telling you で，出現の時期が最も早く，2010 年代の相対的な頻度も単純現在形の 2 倍以上となっている。続いて，指示型（表 2）の「依頼」（asking，begging と requesting），「警告」（warning），「命令」（ordering）を表す遂行動詞の相対的な頻度が高い。このうち asking と warning は 1940 年代の比較的早い時期から一定程度見られるが，全体的に概ね現在に近づくほど相対的頻度を上げていて，warning では 1980 年代より単純現在形を上回っている。宣言型の遂行動詞（表 3）は，その動詞の意味からコーパスでの出現頻度こそ低いが，進行形は概ね 1980 年以降散見され，その近年の進出の様子は，それぞれ右欄に併記した COCA における単純現在形との競合にうかがえる。

最後に I'm saying（表 1）について触れておこう。I'm saying は I'm telling you と同じ発話動詞であるが，ずっと頻度が低い。これには元となる単純現在形の

命題を強調する I say が，遂行動詞の進行形が散見されるようになる 20 世紀半ばには衰退傾向にあり，古風になりつつあったことによると推察される。[11)]

さて，ここまで主に進行形が比較的多くみられた遂行動詞を選定して，その進出の時期と度合いを単純現在形との比較で定点観測的にみてきた。しかし，これだけでは 1900 年以前のことや「定点」以外のことは不明である。そこで，表 1〜3 で触れていないものを含めて，49 の遂行動詞の進行形の COHA 全体における出現状況を図 1 に示す。ただし，I'm telling you，I'm begging you，I'm warning you，I'm asking you，I'm ordering と I'm saying のより高頻度の 6 つの動詞では, 初出例を含めた初期や定点間の空白を埋めるのに必要な検索に留めた。ここでも遂行動詞はクラス別に提示し，be 動詞は縮約形で代表させている。より高頻度の遂行動詞は，おおよそその時期の頻度に見合った太い実線で，低頻度のものは細い実線で示した。該当例が散見される程度の動詞では，それが 1 例〜3 例確認された年代にバツ（×）印を，5 例〜6 例が確認された年代にはバツ印を 2 つ振り，バツ印に一定の連続性がみられるものには細い実線を施した。「備考」欄には，当該クラスでの動詞の意味を記載している。

まず, 図 1 では, 該当例が全く確認されなかったもの（図中の【該当例なし】）も少なくなく，継続して進行形の使用がみられる動詞は 1/5 程度に限られていている。これは，大多数の遂行動詞では専ら単純現在形が用いられるという，De Wit et al.（2018）の観察と大方一致する。De Wit らは，進行形の遂行動詞は指示型の遂行動詞に目立ち，表現型と行為拘束型では皆無であると報告しているが（p. 257f.），このことも確認される。ただ図 1 では，断言型においても，定型的な I'm telling you と I'm saying を除けば，進行形の進出は極めて鈍いといえる。一方で，図 1 では進行形は近年より多くの遂行動詞に散見され，また，単純現在形に対して進行形の相対的頻度が高い動詞では，その頻度が上昇していることを表 1〜表 3 でみた。このことから，進行形は少しずつ遂行動詞に進出しつつあるとみてよいだろう。

次に，進行形が最も広くみられた指示型の動詞群についてみる。De Wit et al.（2018: 258）は，ある種の遂行動詞は切羽詰まった（urgent）意味をもち，このことが進行形に内在する強調や緩和の桁外れ感と親和性があると述べている。図 1 でも切羽詰まった，強い意味をもつと考えられる ask，beg，request，order，warn に進行形が目立つ。そして，より意味が弱いと感じられる advise，suggest，propose，recommend，allow では進行形は少ない。しかし，強い意味をもつと考えられる insist，demand，urge では進行形は極めてまれで，claim,

| <断言型> | 1890s | 1900s | 1910s | 1920s | 1930s | 1940s | 1950s | 1960s | 1970s | 1980s | 1990s | 2000s | 2010s | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| I'm telling you* | — | — | — | — | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | |
| I'm saying | | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| I'm claiming | | | | | | | | | | × | | | | 主張する |
| I'm insiting | | | | | | × | | | | | | | | 主張する |
| I'm denying | | | | | | | | | × | | × | | | 否定する |
| I'm suggesting | | | | | | | | × | | | × | | | 示唆する |
| I'm accepting | | | | | | | | | | | × | | × | |
| 【該当例なし】I'm adding　I'm admitting　I'm asserting　I'm concluding　I'm emphasizing　I'm noting　I'm pointing out　I'm reminding　I'm repeating　I'm stressing | | | | | | | | | | | | | | |
| <指示型> | 1890s | 1900s | 1910s | 1920s | 1930s | 1940s | 1950s | 1960s | 1970s | 1980s | 1990s | 2000s | 2010s | |
| I'm asking | | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| I'm begging** | | | | | | — | — | — | — | — | — | ■ | ■ | |
| I'm requesting | | | | | | × | × | | × | — | × | — | × × | |
| I'm ordering | | | | | × | | | — | — | — | — | — | — | |
| I'm warning*** | | | | — | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | |
| I'm advising | | | | | × | | | × | | | × | — × | — × | |
| I'm suggesting | | | | | | × | | × | × | | | × | — × | |
| I'm proposing | | | | | | | × | | | × | | × | | |
| I'm recommending | | | | | | | | | | | | × | — × | |
| I'm allowing | | | | | | | × | | | | | | | |
| I'm insiting | | | | | × | | | | | | | | | 強く求める |
| I'm demanding | | | | | | | | | | | | × | | |
| I'm urging | | | | | | | | | | | | | × | 強く勧める |
| 【該当例なし】I'm claiming（要求する）　I'm prohibiting　I'm refusing | | | | | | | | | | | | | | |
| <表現型> | 1890s | 1900s | 1910s | 1920s | 1930s | 1940s | 1950s | 1960s | 1970s | 1980s | 1990s | 2000s | 2010s | |
| I'm blaming | | | | | | | | | × | | | | | |
| 【該当例なし】I'm apologizing　I'm complaining　I'm forgiving　I'm protesting | | | | | | | | | | | | | | |
| <行為拘束型> | | | | | | | | | | | | | | |
| I'm offering to | | | | | | | | | | | × | | | …すると申し出る |
| 【該当例なし】I'm promising　I'm swearing | | | | | | | | | | | | | | |
| <宣言型> | | | | | | | | | | | | | | |
| I'm dedicating | | | | | | | | | | | | × — | — × | |
| I'm declaring | | | | | | | × × | — × | — × | — × | — × | — × | — × | |
| I'm denying | | | | | | | | | | | | | × | <動議>を却下する |
| I'm resigning | | | | | | × | — × | | — × | — × | — × | — × | — × | |
| I'm appointing | | | | | | | × | — × | — | — × | — × | — | — × | |
| I'm naming | | | | | | | | | | | | | × | 命名する，に指名・任命する |
| 【該当例なし】I'm calling A B（AをBと呼ぶことにする）I'm defining（…を<…と>定義する） | | | | | | | | | | | | | | |

*I'm telling youの100万語当たりの頻度（PMW）1920年代: 1.44　1930年代: 3.10

**I'm beggingの2000年代のPMW: 0.69　　*** I'm warningの1930年代のPMW: 0.83

図 1. 各種進行形の遂行動詞の通時的出現分布［COHA］

refuse，prohibit では観察されず，強い意味をもつ動詞が必ずしも進行形を受け入れやすいとは一概にいえないことが分かった。

最後に，宣言型の動詞群について触れておく。De Wit らは，進行形の桁外れ感は「I'm dedicating のような半ばイディオム的な表現を生んでいる（leading to more or less idiomatic expressions）」（p. 258）と述べている。しかし，図 1 では進行形はほかの宣言型の動詞にも比較的進出しつつあることが分かる。

## 4.2 考察

4.1 でみた異なるクラスの遂行動詞への進行形の進出状況はどのように説明されるだろうか。部分的な説明に留まるが，考察を試みる。簡潔に述べれば，De Wit et al.（2018; 2020）は遂行動詞の進行形は桁外れ感を狙って用いられるとするが，遂行動詞の進行形の使用を促す要因はそれだけではなく，ほかにも複数あると考えられる。その要因の中には，遂行動詞にまつわる「カジュアル感」や「口語的な語感」（以下，単にカジュアル感）があり，桁外れ感を狙った進行形はこのタイプの動詞で利用されやすいことがまずあると考えられる。進行形とカジュアル感，話し言葉との親和性はしばしば指摘されるところであるが（例えば Biber, et al., 1999: 461, 471; Williams, 2007: 78），形式ばった遂行文においては進行形はカジュアル感のある動詞を好むのかもしれない。また，形式ばった語感の動詞よりカジュアルな動詞の方が，話し手の桁外れ感を乗せ

表 4. 各種遂行動詞の COCA の TV/M（と FIC）のジャンルでの相対的出現状況

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| <断言型> | tell | say | claim | insist | deny | accept | add | admit |
| | ◎ | △ | × | × | ▲ | ▲ | × | △ |
| | assert | conlude | emphasize | note | point out | remind | repeat | stress |
| | × | × | × | × | × | △ | ▲ | × |
| <指示型> | ask | beg | request | order | warn | advise | suggest | propose |
| | ○ | ◎ | ▲ | △ | △ | ▲ | × | × |
| | recommend | allow | insist | demand | urge | refuse | porohibit | |
| | × | ▲ | × | × | × | ▲ | × | |
| <表現型> | blame | forget | complain | protest | apologize | <行為拘束型> | offer | promise | swear |
| | △ | ◎ | ▲ | ▲ | ◎ | | × | ○ | ◎ |
| <宣言型> | dedicate | declare | resign | appoint | name | define | | |
| | × | × | ▲ | × | △ | × | | |

やすいこともあるかもしれない。まず，この動詞のカジュアル感の要因が，時にそのほかの要因も絡んで，遂行動詞の進行形使用にどう影響するかを吟味しよう。

それぞれの動詞のカジュアル感は主観的なものであるが，ここではそれを各動詞がマルティ・ジャンルの COCA にて，よりフォーマルな MAG，NEWS と ACAD に対して，カジュアルなジャンルの TV/MOV（と FIC）で相対的にどの程度用いられるかにより，5 段階で捉えてみた。具体的には，当該の遂行動詞の使用が，（1）TV/MOV と FIC で際立ち，MAG，NEWS，（特に）ACAD で少ないもの（◎），（2）TV/MOV（と FIC）でより多く，MAG，NEWS，（特に）ACAD で少なめなもの（○），（3）ジャンル間で比較的均等で，TV/MOV（と FIC）は特に多くも少なくもないもの（△），（4）TV/MOV（と FIC）で少なめで，MAG，NEWS，（特に）ACAD で多めなもの（▲），（5）TV/MOV（と FIC）で少なく，MAG，NEWS，（特に）ACAD で多めの（多い）もの（×）の 5 つに分類した。表 4 は各動詞の（1）～（5）の段階を直観的な◎，○，△，▲，×で示したものである。分類は，その動詞としてのカジュアル感を捉える意図から，異なるジャンルにおける各動詞のレンマ（_vv のタグ使用）の件数に依った。いずれの段階に分類されるか微妙なものも時にあったが，各動詞のおおよそのカジュアル感の度合いを捉えることを意図している。ただし，例えば，断言型の suggest「示唆する」は，指示型の「提案する」の用例に比べて少ないと考えられ，表には含めていないものもある。また，stress は各ジャンル任意の 100 例中の「強調する」の意味の用例を手作業で抽出し，その数を基にした各ジャンルの見込みの件数に依った。網掛けの動詞は，図 1 及び表 2 と 3 にて進行形が比較的多かったものを示す。

まず，断言型と指示型の動詞から検討しよう。網掛けのある動詞は，request を除けば，そのほかの進行形の進出が鈍い動詞とは異なり，△，○または◎の分布となっている。ただし，進行形の使用を促進するのは，動詞のカジュアル感だけではなく，個々の動詞の事情が影響することもある。Request は▲であるが，類義の ask と beg の影響で進行形の使用が促されていると推察される。また，warn は△で，カジュアル感は特に高くはないが，I'm telling you，特に I'm begging you と同様に，補部を従えるのではなく，*I'm warning you*, step back. のように自立的にホスト文と並列的にほぼ常に用いられる。I'm warning you は独立したユニットして認識されることで，その使用が自動的となり，このことが高頻度につながっていると考えられる。また，say は伝統的な I say のなごりで，

少ないながらも継続して観察されるのだろう。

これ以外の断言型と指示型の進行形の進出が鈍い動詞は，ほぼ TV/MOV（と FIC）における使用度が低く，同じ指示型の強い意味をもつ動詞（表 4 の insist ～prohibit）でも桁外れ感を狙った進行形で利用されることが少ないのは，そのカジュアル感不足にあるのかもしれない。また，断言型の accept，add，admit，conclude，note と point out では，カジュアル感不足に加えて，意味的に桁外れ感とはあまり関係がなさそうなことも，進行形が希少であることの原因であるかもしれない。ただし，図 1 と用例（7c），（9）の諸例にみるように，カジュアル感が弱い動詞でも，桁外れ感を狙った（と考えられる）進行形がまれに用いられることはあり（注 12 も参照），桁外れ感を狙った進行形はカジュアル感のある動詞で利用されるというのは「傾向」と捉えられる。

一方で，ほかのクラスの遂行動詞の多くでは，カジュアル感のあるものが進行形を受け入れやすいという傾向と矛盾する結果となっている。まず，宣言型の動詞は，近年進行形の進出が比較的よく観察されたものも含めて，TV/MOV（と FIC）での使用度が低い。また，査読者が指摘する通り，その用例も桁外れ感は関係しないもの（特に（10c）–（10e）など）がより多いと思われる。このことから，宣言型の動詞では別の理由により進行形が用いられることが多いと考えられる。このことを 3 つの動詞についてみてみよう。Williams（2007）は，法律文書では遂行動詞は単純現在形が原則としながらも，くだけた法律文書では時に進行形が用いられることがあるという。そして，*I am hereby appointing* Jean Graham as the <u>temporary</u> clerk for …の実例を挙げ（p. 60），ここでは当該の任命が一時的なものであるので，進行形が用いられているという。COCA の I'm appointing の 1990 年代～2010 年代の用例を吟味すると，9 例中（10 例中 1 例は不明）4 例はこうした臨時的任命の文脈ととれそうである（（10d）参照；少佐を弁護人に任命することは通例ありえない）。同様に，I'm naming は，6 例中 4 例は臨時的な名づけ行為の感が強いと感じる（（10e）参照）。一方，I name の諸例にはそのような感はなかった。Dedicate にもこれに関連した違いがみられた。I dedicate は書籍，エッセー，建造物など制作物を捧げる事例が目立つが，I'm dedicating では，捧げるものはその場で歌う歌や試合など一過性のものが目立ち，制作物はおそらくウェブ掲載の短編（（10a））からの 1 例のみであった。[12] 宣言型の進行形は，進行形の一時性・臨時性という特性に動機づけられている部分がより大きいと考えられる。[13]

最後に，表現型と行為拘束型の動詞では TV/MOV（と FIC）の比率が高く，

カジュアル感のあるものも目立つが，既述の通り，これらの進行形は皆無であった（図 1 参照）。現在のところ，これらのクラスの遂行動詞の進行形の使用を妨げる要因は不明で，[14] 今後の課題としたい。

まとめると，Det Wit らの指摘する桁外れ感を狙った進行形は，カジュアル感のある動詞で活用されやすいこと，一方で，個々の動詞の事情やほかの進行形の特性により進行形の使用が促されることもあり，遂行動詞の進行形使用を促す要因は複数あることを論じた。[15]

## 5. おわりに

本稿は遂行動詞への進行形の進出を通時・共時の両面から調査・考察を行った。De Wit et al.（2018; 2020）の知見が確認された部分もあった一方で，切羽詰まった意味をもつ遂行動詞が必ずしも進行形に馴染むわけではないこと，断言型も定型的なものを除いて進行形は希少であること，宣言型に進行形が相対的に進出しつつあることをみた。そして，遂行動詞の進行形を促す要因は，桁外れ感だけではなく，動詞のカジュアル感ほか複数あることを指摘した。

一方で，課題も残された。宣言型の遂行動詞に進行形が拡がりつつある要因はさらに究明が必要で，表現型と行為拘束型の遂行動詞では逆に進行形が避けられる理由の解明が待たれる。遂行文と行為解説用法（とそのほかの用法）の区分をどう捉えるかの問題もある。また，I'm telling you，I'm begging you と I'm warning you の自立的ユニット性（とその使用頻度との関係）については，別に論じたい。ほかにも，単純現在形と進行形の遂行文とで，主に用いられる発話行為の種類が異なる変わり種もみられた。進行形の遂行文は周辺的な現象ではあるものの，思いの外興味深い事象が存在するようである。

## 注

* 査読の先生方より貴重なご指摘とご意見を賜りましたこと，厚くお礼申し上げます。なお，本稿の誤りや残された問題は筆者の責任に帰することは言うまでもない。

1. De Wit et al.（2018）によれば，状態と習慣的行為の事態は非有界で均質的であるため，また，スポーツの実況では，パス－シュートなどプレーの一連の展開はかなり予測可能であるため，話し手は当該の文の発話時にその事態を完全に認識可能という。
2. 例えば，Hübler（1998: Chap. 4），Kranich（2010: 82–88），Petré（2017）を参照。
3. 現代英語においても，進行形が強調といった主観的・感情的なニュアンスを添え

るという主張は，Hatcher（1951）や Hübler（1998: Chap. 4）などにもみられる。Hatcher（1951）は，通常は単純（現在）形が用いられるところで進行形が用いられる一連の事例の中に，I'm warning you と I'm telling you を挙げている（p. 272）。遂行動詞とは述べていないが，こうした動詞の進行形が強調の意味をもちうることをすでに指摘している。

4. 行為解説用法とそのほかの進行形の用法との切り分けは困難を伴うことが，Smitterberg（2005）と米倉（2023）で指摘されているが，それとは別に，査読者より行為解説用法と遂行動詞とを切り分けることについて根源的な問題提起をいただいた。つまり，例えば（4a）で I'm ordering は話し手の発話の意図は命令なのだと解説をしているが，それは聞き手にその意図が命令だと理解させることで，同時に発話内の力をもち，遂行文としても機能しているのではないか，というご指摘である。本研究は，遂行動詞と行為解説用法を独立したものであることを前提にしているが，今後の研究に当たってはその前提についても検討課題としたい。
5. 吉良（2018: 199–205）の言う「前段階」とはある出来事の時間的に前の領域を指し，進行形には必ずこの「前段階」が存在するという。例えば，When I visited him, he **was having** lunch. では，「ランチを食べる」行為は，「私が彼のところを訪れた」基準時より前から始まっている（「食べていた」）ことになり，「前段階」が存在する。ちなみに，発話と瞬時同時的に行為をなす遂行動詞にはこの「前段階」が存在しないために，遂行動詞は通例，進行形にならないことになる。
6. *Longman Dictionary of Contemporary English*, 5th ed. (LDOCE5)（s.v. *tell* v. 15）など複数の学習者向け英英辞典も，I'm telling you を（Spoken）Phrases あるいは Idioms として記載している。
7. 進行形と単純現在形の遂行動詞の合計 30 の用例（多くは本稿の用例とは異なる）について，2 名の英語母語話者に 2 つの形式のニュアンスの違いをアンケート調査したところ，平均で半数強のペアについて進行形の方がより強調的，深刻さを感じるといった回答（これらは桁外れ感）を得たが，特段に違いは感じられないというものもあった。また，桁外れ感は文体的・修辞的なもの（De Wit et al., 2018: 258）であるので，個々の文に対する印象には個人差も少なくなかった。
8. 集計では，近接（隣接）して用いられた用例とコーパス中の重複例は，それぞれ 1 例として数えた。
9. 網掛け対象の I'm saying の頻度は, 左側の COHA 全体での出現頻度に基づいている。本稿で調査した遂行文はほぼ TV/MOV と小説をはじめとした会話部分にみられた。
10. 表 1 は断言型の用法についての調査であるため，それ以外の用法（指示型，質問型（rogative））の用例，I say の提案や注意喚起など（LDOCE5, s.v. *say*[1]. 37）の用例は除外している。
11. TV/MOV の I say の 1940 年代の出現頻度は高いが，I tell you の TV/MOV に限った 1960 年代の出現頻度は 45.44/PMW で, 1940 年代の I say の 3 倍以上に上る。また，Yamazaki（2023: 57）のイギリス英語の戯曲と映画作品の調査によれば，命題を強調する I say の頻度は 18 世紀から 1990 年代の間にほぼ 1/9 にまで減少している。

12. De Wit et al.（2020: 504）は，単純現在形に比べて強意的な桁外れ感を伴うとする I'm dedicating の用例を挙げているが，（10a）についてインフォーマントのひとりは同様の印象を報告し，もうひとりは少しだけ強意的であるかもしれないと回答した。（10a）の進行形は桁外れ感を狙った進行形の使用例であるかもしれない。
13. ただ，これら 3 つの動詞の一時性・臨時性は感じられない用例については，何が進行形の使用を促すのかの考察が必要である。また，resign（辞職する）の用例については一時性も桁外れ感もほぼ関係ないと考えられ，その進行形を促す要因は不明である。なお，declare については，その進行形は単純現在形と異なり，（小）節でなく NP（（10b）参照）をその補部にとる傾向がみられたが，これは進行形のカジュアル感と関係があるかもしれない（注 15 参照）。
14. De Wit et al.（20218: 258）は表現型と行為拘束型の遂行動詞に進行形が用いられにくい理由をごく簡潔に示唆しているが，その説明は（切羽詰まった意味の）指示型の動詞とはどう異なるのか筆者には合点が行かない。
15. ほかにも，進行形のカジュアル感が遂行動詞の進行形使用を促すこともあるようである。インフォーマントによると，雑誌の読者欄からの用例，*I'm suggesting* vinho verde to everyone looking for a value white wine. So crisp, so clean, so citrusy, it complements just about any summer meal. Drink up!（2011, MAG, *Country Living*）では，進行形のカジュアル感がこの文の内容にふさわしいという。

## 参考文献


Biber, D., S. Johansson, G. Leech, S. Conrad and E. Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman.

Davies, M. (2008-) *The Corpus of Contemporary American English (COCA)*. Available online at https://www.english-corpora.org/coca/.

Davies, M. (2010) *The Corpus of Historical American English (COHA)*. Available online at https://www.english-corpora.org/coha/.

De Wit, A. and F. Brisard (2009) "Expressions of Epistemic Contingency in the Use of the English Present Progressive." *Papers of the Linguistic Society of Belgium* 4 (18 pages).

De Wit, A., F. Brisard and M. Meeuwis (2018) "The Epistemic Import of Aspectual Constructions: The Case of Performatives." *Language and Cognition* 10: 234–265.

De Wit, A., P. Petré and F. Brisard (2020) "Standing Out with the Progressive." *Journal of Linguistics* 56: 479–514.

Eastwood, J. (1994) *Oxford Guide to English Grammar*. Oxford: Oxford University Press.

Fraser, B. (1996) "Pragmatic Markers." *Pragmatics* 6, 1: 167–190.

Grundy, P. (2020[4]) *Doing Pragmatics*. London and New York: Routledge.

Hatcher, A. G. (1951) "The Use of the Progressive Form in English: A New Approach." *Language* 27, 3: 254–280.

Huang, Y. (2014[2]) *Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.

Hübler, A. (1998) *The Expressivity of Grammar: Grammatical Devices Expressing Emotion*

*Across Time*. Berlin: Mouton De Gruyter.
吉良文孝（2018）『ことばを彩る 1 ―テンス・アスペクト』東京：研究社.
König, E. (1980) “On the Context-dependence of the Progressive in English.” In Rohrer, C. (ed.) *Time, Tense, and Quantifiers*. Tübingen: Max Niemeyer Verlag, pp. 269–291.
Kranich, S. (2010) *The Progressive in Modern English: A Corpus-based Study of Grammaticalization and Related Changes*. Amsterdam: Rodopi.
Leech, G., M. Hundt, C. Mair and N. Smith (eds.) (2009) *Change in Contemporary English: A Grammatical Study*. Cambridge: Cambridge University Press.
Ljung, M. (1980) *Reflections on the English Progressive*. Göteborg: Acta Universitatis Gothoburgensis.
毛利可信（1980）『英語の語用論』東京：大修館書店.
Petré, P. (2017) “The Extravagant Progressive: An Experimental Corpus Study on the History of Emphatic [BE Ving].” *English Language and Linguistics* 21, 2: 227–250.
Searle, J. R. (1975) “A Classification of Illocutionary Acts.” *Language in Society* 5: 1–23.
Searle, J. R. (1989) “How Performatives Work.” *Linguistics and Philosophy* 12, 5: 535–558.
Smitterberg, E. (2005) *The Progressive in 19th-century English: A Process of Integration*. Amsterdam: Rodopi.
Thomas, J. (1995) *Meaning in Interaction: Introduction to Pragmatics*. London and New York: Routledge.
Wierzbicka, A. (1987) *English Speech Act Verbs: A Semantic Dictionary*. Sydney: Academic Press.
Williams, C. (2007[2]) *Tradition and Change in Legal English: Verbal Constructions in Prescriptive Texts*. Bern: Peter Lang.
Yamazaki, S. (2023) “Changes in *I Tell You* and Other Formulaic Explicit Assertive Performatives.”『近代英語研究』39: 39–66.
米倉よう子（2023）「英語の解釈的進行形用法の発達について」近代英語協会第 40 回大会 口頭発表.

（山﨑　聡　千葉商科大学　E-mail: s2yamaza@cuc.ac.jp）